

## 口蹄疫を乗り越えて

公益財団法人中国四国酪農大学校 酪農科 1年 本部 琴海

私の地元である宮崎県では、2010年4月に大規模な口蹄疫が発生しました。それをきっかけに、私の夢は「両親が繋いだ牛を受け継ぎ、守り、発展させ次の代へ繋ぐこと」になりました。

私の実家は、宮崎県新富町で酪農を営んでいます。現在は、パーラーで120頭、搾乳ロボットで100頭搾っています。口蹄疫が起こったときは、121頭の牛を家族経営で飼育していました。私はまだ幼稚園年長で私の兄は小学校1年生でした。口蹄疫が発生してからは私も兄も学校に行けず、ただ家で口蹄疫が早く終息することを祈っていました。私の家の前には大型のトラックがたくさん通る大きな道路があるので、ウイルスが入ってこないように祖父を中心に毎日通る車全てを消毒していました。そんな懸命な予防のかいもあり我が家の牛は1頭も感染しませんでした。しかし、感染頭数はどんどん増えていったため、感染が多発していた川南町を中心とする地域の移動制限区域内の全ての牛、豚を対象として、殺処分を前提としたワクチン接種の実施が決まりました。そして、その範囲内に家の牛たちも含まれていました。大体の牧場主がこれを受け入れず猛反対しましたが、当時の代表だった祖父はすぐに受け入れたそうです。そのおかげか家の周りの牧場主たちもすぐに受け入れてくれたそうです。私と兄はまだ幼かったため感染していないのに殺処分されるということを教えてもらえず、ワクチンが打たれる日も何も知らされず、家にいなさいとだけ言い母と父は牛舎に向かいました。私は父たちはどこに行ったんだろうと窓からずっと外を見ていました。すると、白い防護服を着た人たちがたくさん来て牛舎に入っていました。それを見て、何かを察したのか家から飛び出し牛舎に向かい、その人たちの前に立ちはだかって「やめて!」と大泣きしながら叫んだことを今でもずっと覚えています。結局、子供の言ったことでやめるわけにはいかないので私は母に家に連れ戻されてしまいました。そして、私の家の牛舎からは牛がいなくなりました。

生まれた時から牛がいる環境で育ってきたので、毎日夜に牛の鳴き声があるのが当たり前だったのでその日から夜が静かになり逆に眠れませんでした。牛舎に行っても牛がいなくてただ真っ白な牛舎が広がっているだけ。それから少しして、口蹄疫が終息したというニュースを見ました。やっとかという想いと悲しみとこれからどうなるんだろうという想いが頭に浮かびました。きっとワクチン接種を承諾した祖父が一番つらかっただろうし、祖母や父、母も私よりも何倍もつらかっただろうなと思います。

でも、そんなつらい出来事を乗り越えて祖父は北海道に預けていた牛を宮崎に連れて帰ったり牛を買ったりして酪農を再開しました。そこから、今の大規模経営まで発展させたのだから本当に尊敬します。そして、口蹄疫発生から2年後の2012年には、宮崎県は第10回全国和牛能力共進会で2連覇となる日本一を達成し復興を達成しました。昨年には、史上初の4大会連続で内閣総理大臣賞を受賞し宮崎牛のおいしさを証明しました。私の家族を含め、宮崎県の人

は強いなと思いました。私も宮崎県民として実家の牧場をもっと発展させていきたいと思いました。

私は、高校は農業高校に進学しようと思っていましたが、母に「あなたが自立するにはまだ早いし、酪農経営は大変だからもう少しいろんなことを勉強して将来の幅を広げておいた方がいい。」と言われ、普通高校に進学しました。最初は、部活には入らず家に帰って牛舎の手伝いをしようと思っていたのですが、「部活はやっておいた方がいい」と言われたので体力がつきそうで少し興味があったソフトテニス部に入部しました。それでも、部活が休みだったり早く終わったりした日は牛舎の手伝いに入るようにしました。忙しい母に代わって自分と兄の分のお弁当を作ったり洗濯をしたりなど自立できるように生活面でも気を付けるようになりました。そして、地元の農業大学校に進むか県外の農業大学校に進学するか迷い、母に相談したところ「地元に残るとあなたの性格上甘えが出るから行くのなら外に出て知識や技術、生活力など色々な力を身につけて帰ってきなさい。」と言ってもらえました。そこから、自分でいろいろ調べて現在在学中の中国四国酪農大学校に進学することを決めました。正直に言うと、私の実家は酪農をしているし私も手伝っていたから少しは牛の扱いに慣れていると自信を持っていました。しかし、実習が始まってから自分がどれだけできないかを思い知らされました。それを知れただけでここに進学してよかったと思いました。これからは、勝手な自信を捨てまっさらな状態でいろいろな知識や技術を吸収したいです。

私は、酪農大学校で経営力や牛の扱い方、口蹄疫はもちろん他のいろいろな病気の予防法や治療法などを身につけ宮崎県に戻り、実家の牧場を発展させ宮崎の畜産業界を盛り上げていきたいと思います。